

【キーワード】

〔施設種別〕 ■高齢者施設 ■障がい者施設 □子ども施設 ■住宅 ()
 〔運営主体〕 □市区町村 ■法人 □NPO □個人 (補助金) □内閣府 □国土交通省 □厚生労働省 ()
 〔建物形式〕 ■1棟単体型 □複数棟集合型 □団地型 (建物状況) □新築 □増築 ■改修 □一部改修 □既存
 〔対象者〕 ■高齢者 ■障がい者 ■子ども ■ファミリー ■多世代



写真1. 外観：幹線道路に面する。奥がGHの入り口

国道沿いで駅に近い診療所を1階を図書館・喫茶、上階を認知症高齢者グループホーム等に転用。図書館を開いたきっかけは屋外でたむろする中高生の居場所づくり。

■施設情報

所在地：北海道倶知安町南3条西1丁目17

施設種別：地域交流センター(図書室・喫茶)、障害者就労継続支援B型、認知症高齢者グループホーム他

運営主体：社会福祉法人 黒松内つくし園

延床面積：1,369.1m²

建物構成：地上3階

構造規模：RC造

利用者数：障害者20名、高齢者18名

運営開始：2009年

1. 福祉転用の経緯

倶知安町の駅から徒歩5分ほどの距離にあり、札幌・小樽・函館間を結ぶ国道に面する。1987年竣工の診療所であったが、院長が亡くなった後空き家になった。それから数年後に、国道沿いの目立つ場所にあるのに閉鎖のままでは寂しいと商工会から法人に建物の利活用の声が寄せられた。

2. 福祉転用した動機

まずは既存建物の利活用ありきで事業の計画が始まり、地域の問題を見つけて事業化を進めた。1つ目が認知症高齢者グループホームである。主に障害者向けの福祉事業を行っていた社会福祉法人であったが、当時町内に不足していた認知症高齢者グループホームを行うこととなった。2つ目が中高生の居場所として1階の図書館や喫茶を設けたことである。



写真2. 喫茶スペース：子どもから高齢者まで思い思いに過ごす



写真3. 図書スペース：写真右にキッズルーム

参考文献

- 1) 倶知安複合施設つくしんぼ HP (<https://www.tsukushien.or.jp/facilitie/98>) 2021年7月13日参照
- 2) 森一彦, 加藤悠介, 松田雄二, 松原茂樹他, 山田あすか編著, 福祉転用による建築・地域のリノベーション: 成功事例で読みとく企画・設計・運営, 学芸出版社, 2018

一見したところ「福祉」とは無縁の町に開いた場になっている。町には図書館があるが駅から1.5km 弱離れた公共施設が立地しているエリアにあり、また図書の種類も中学生には物足りなかった。中学生はスーパーなど屋外に集団で過ごしている様子が見られたので、彼らの居場所として気軽に立ち寄ってもらいやすいように漫画、参考書や一般書を揃えた無料の図書館を開いた。併せて喫茶も中学生の金銭事情に配慮して低価格でボリュームのあるもの(ハンバーガーなど)を揃えた。また子育て中の親子の居場所にもなるよう、子どもが遊べるようガラスで仕切ったキッズコーナーも設けている。さらに障害者の就労の場にもなっている。彼らは職員の支援を受けながら調理や接客、清掃などほぼすべての仕事を担当している。

(大阪大学 松原茂樹 2021.8.31)

